



地域づくりの支え手入門講座 第6回「ふりかえり」



6回連続の講座のうち、第5回目までの講座のふりかえりを行いました。

大人の学びの中心は、他者との対話を通じた自分のことや相手のこと、そして自分や相手の暮す地域のことを深く知ることにあります。そう考えると、講座を受けて自分は何に気づき・何を学んだか、それを受講者同士の対話により深めていくふりかえりは、大事です。

ふりかえりや講師の船木成記さんの総括講義を通して地域づくりの支え手にとって大切な備え・構えについて、受講者一人ひとりが言語化する機会となりました。

受講者 33名（オンライン参加12名、後日YouTube視聴21名）

<研修内容>

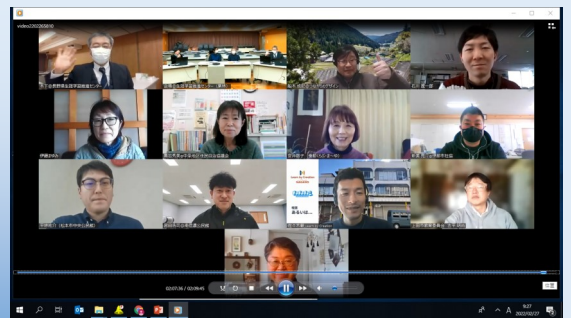
【ふりかえり】

- 各回受講者を代表した報告
- ブレイクアウトルームに分かれグループ別話し合い
- 全体共有
- コーディネーターのコメント

- 安井啓子氏（第3回上田 蚕都くらぶ・ま〜ゆ）
- 新美亮介氏（第4回伊那 伊那市社会福協議会）
- 宮田浩司氏（第5回飯田 南信濃公民館）

【総括講義】

「地域づくりの支え手にとって必要な備え・構え」
船木成記氏〔（一社）つながりのデザイン〕



地域に在るといふ、まなざしとは？

- ・予断なく、問いかけるを
 - ・気づきと学びの連鎖を
 - ・意味付ける
- ・一方、最大のビジョナリスト（ありたい姿）であることためには
 - ・でも、それを押し付けない、なるほど。
- ・コミュニティの学びのスイッチ（自治につながる）を
 - ・自らが最大の学ぶ人に（思い込みを外す、変更を受け入れる）
- ・対話と協働についての理解と実践
 - ・シンパシーとエンパシー
 - ・心理的安全性を
 - ・在る（being）という存在様式
- ・早く（速く）行きければ一人で行け、遠くへ行きたいならみんなで行け



<受講者アンケートから>

- ブレイクアウトルームで互いに感じたこと、考えることを出し合うことで、改めて自分としての整理をすることができたほか、他者の視点を聞いたことで、この講座の意味付けができ、奥行きのある時間となった。（県職員）
- 総括講義は、なかなか表現が難しいと思われる、地域への寄り添い方・支え手としての立ち位置を、うまく表現してまとめていただいたので、ストーンと落とし込むことができた。意味づけをしていただいたので、振り返りにもつながった。（県職員）
- 地域づくり、地域振興を考えるうえで、実際に動いてみるのが大切だと感じました。動くことによる経験や成功、時には失敗は次につながる糧だと思います。（県職員）
- なかなか一人でやるのは難しい気がします。同じ情報を共有する人がいると次のステップに踏み出しやすいと思えます。（一般）